

就職活動を振り返って 『出会いに感謝、Why not 何事も挑戦』

RWE Renewables Japan
鈴木 祐介 (C08)



海洋地盤調査船の前で同僚と（右から2番目が筆者）

神戸大学市民工学科出身である私の、神戸大学からオーストラリアでの留学、ノルウェーでの就職を経て、現在東京勤務へと変遷したキャリア経験を紹介したい。

旅の始まりは学部生の頃だった。学部4年生になると更なる専門分野を磨くため、卒業論文のために研究室への配属が決まる。大学当初から部活動やアルバイトに日々明け暮れていた私は、研究室というある意味大きな家族のようなグループに入ることで、研究（と遊び）に没頭することができた。研究室内では先生や先輩から専門分野の教えを頂く中、海外からの研究員や留学生とも交流ができる機会があったことは、今後の私の人生に大きな影響を与えることとなった。大学入試前から英語は苦手で、学部授業の必須科目であっても正直それ程力を入れてこなかった。しかし、研究室に入って身近な国際交流があり、英語に興味を沸き、もっと上達したいと思うようになった。指導教員の恩師I先生に「少し海外に興味があります」と相談すると、先生からは「英語するなら海外に行って博士号を取れ」と勧めていただいた。更に、海外で働かれている研究室の先輩を紹介して頂

き、海外に留学し就職するという道があることを知った。神戸大学大学院へ進むことを決めていた自分の為に、修士論文を海外の教授に研究指導委託をできるよう、先生が掛け合っていただき、私の海外留学の道が始まった。

Why not 行ってみよう。パースにある西オーストラリア大学にて修士論文の研究がスタートした。今となって振り返ってみると、英語能力がほぼゼロに近かった私にとって、伝えたいことが伝わらない場面ばかりで、当初は険しい道のりであった。

西オーストラリア大学での指導教員には英語が拙いことで多大に迷惑をかけたかと思う。最初の6か月、まず英語を徹底的に磨いた。豪に入っては豪に従えと言うほど、英語環境でローカルな生活を楽しむ自分がいた。私自身の研究活動も着実に進み、無事に神戸大学大学院への修士論文提出に至った。そんな経験からか、修士後の進路を考える自分の頭には就職活動の文字は無く、私はオーストラリアに戻って博士課程(PhD)への進学の可能性を模索した。幸いにも奨学金を頂くことができ、西オーストラリア大学のPhDに進学した。

西オーストラリア大学の海洋地盤工学は世界でも最高峰、最先端に行く研究を行う有名な教授らや研究者らが多数在籍し、国の枠組みなど関係無く世界各地から優秀な人材が学生としても集まる場であった。様々なバックグラウンドを持つ学生仲間と出会い、研究活動に切磋琢磨し、文化交流でも有意義な時間を過ごし、公私ともに充実した日々を過ごすことで出来た。留学当時に出会った友人は、現在では世界各地に分散しているものの、地盤工学という専門分野でつながっており、今でも国際学会や仕事を通して思いがけず再会することもあり、世界に広がる大切なネットワークとなっている。私のPhD研究内容は原位置地盤調査試験を対象とし、現場実験から模型実験、数値解析を活用した研究で、研究活動の中でも多くの技術者に協力してもらい、学位を成し遂げることができた。指導教員の先生をはじめ、当時の多くの協力者と友人に大変感謝している。

PhD 学業修了間近、幸いにも新たな出会いにも恵まれた。ノルウェー地盤工学研究所 (NGI) からの研究者の講義に参加し、ポスドクの採用機会を知った。地球のほぼ反対側まで移住することになるものの、Why not と迷うことなく応募し、受け入れてもらえることとなった。新たな環境での就職はまた新鮮で、更に多くの人と出会うこととなった。一年契約のポスドク研究員のつもりで入社したのだが、結果的には正社員となり計 9 年間もノルウェーで過ごした。北海沖の油田開発、ヨーロッパの洋上風力、ノルウェー国内の公共事業などを主対象とした地盤工学に関する仕事に携わった。学部生時代に言った「少し海外に興味がある」の一言から「英語を使って海外で仕事する」という、英語が苦手であった昔の自分からは到底想像できない状況に変わっていた。

ノルウェーでの前職時の仕事を通じ、また新たな出会いも生まれた。私の現勤務先となる、ドイツの再生可能エネルギー会社 RWE の関係者と知り合いとなった。RWE は洋上風力発電で世界を牽引する先進的企業のひとつで、洋上風力における実績は 20 年以上に及び、ヨーロッパ、アメリカ、日本を含めた APAC まで世界の主要な国々で洋上風力事業の開発に力を入れている。当時ノルウェー在住であるものの、RWE 現同僚から日本での洋上風力発電事業を拡大することを聞き、Why not 日本での洋上風力発展に携わりたいと考えた。それで RWE Renewables Japan に昨年転職し、現在は東京勤務をしている。弊社東京オフィスではグローバルな連携をフル活用し、日本のみならず APAC における洋上風力事業開発を目指している。私はその洋上風力事業での海洋地盤工学を専門としている。地盤工学エンジニアの業務内容としてはモノパイルやケーブルなどの海洋構造物設計に必要な地盤定数の評価と選定を主としている。地盤調査と物理評価は構造物建設のベースであり、より信頼性のある基礎設計と総合的なコスト削減を実現するのに必要不可欠で重要な過程である位置付けられている。オーストラリアとノルウェーでこれまで得た海洋地盤工学の専門知識をフル活用し

業務に従事している。

私の場合、特異な道を進んできたのかもしれませんが、人それぞれ人生色んな道があります。大学卒業から 16 年、様々な境遇で色んな人と出会えたこと、その大切なネットワークを持てたこと、私はその出会いに感謝の気持ちを忘れません。

学生の皆様、学業を終え社会に出ると道は益々大きく開けていきます。大学時代でも社会人となってからでも、友人知人との出会いと繋がりを大切に、また何事にも挑戦していく勇気をもって人生を歩んでいかれてはいかがでしょうか。